

(仮称) 白石越河風力発電事業 計画段階環境配慮書に係る答申(案)

1 全般的事項

- (1) 事業実施想定区域内には、流域保全上重要な森林である保安林が存在しており、また、当該区域には、多数の住居が近接している。
このことから、事業計画の具体化に当たっては、周辺の自然環境や生活環境に配慮すること。また、対象事業実施区域については、法令等の規制により事業ができない区域と環境配慮により選定した区域を明確に区別し、その選定の経緯を方法書に記載すること。
- (2) 対象事業実施区域の選定に当たっては、資材輸送、林道拡幅及び風車の設置等による動植物への影響や温室効果ガスの排出等、全体としての環境負荷の低減に最大限配慮すること。
- (3) 本事業との累積的な環境影響が懸念される他の風力発電事業等については、今後、環境影響評価図書等の公開情報の収集や当該事業者との情報交換等に努め、累積的な環境影響について適切な予測及び評価を行うこと。また、その結果を踏まえ、風力発電設備等の位置、規模、配置及び構造を検討すること。
- (4) 事業実施想定区域周辺の地域住民、地元自治体及び関係者に対して、環境影響に関する情報を積極的に提供するとともに、理解を得ながら事業を進めること。

2 個別的事項

(1) 地形・地質

- イ 国土交通省ハザードマップポータルサイト等で、土石流危険渓流及び土砂災害警戒区域(土石流)に指定された渓流の流域をそれぞれ把握し、事業実施に伴う改変が周辺の土砂災害発生を誘発する可能性について調査、予測し、重大な影響の有無について評価した上で方法書を作成するとともに、必要に応じて事業実施想定区域の見直しを検討すること。
- ロ 対象事業実施区域の選定にあたっては、地震ハザードステーションサイト等で地すべり地を把握した上で、それらの区域と地すべり危険箇所を避けるよう配慮すること。

(2) 景観

鉄塔の見え方に関する基準を適用した場合は、風車の稼働による景観への影響が過小評価となることを考慮し、主要な眺望点からの視野角が1度未満であっても、風車の稼働による誘目性を踏まえて、適切に予測、評価すること。

なお、景観の予測、評価に当たっては、フォトモンタージュ法のほか、風車の稼働による誘目性を適切に把握するため、必要に応じて、動画による手法を設定すること。